

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101549		
法人名	社会福祉法人共和会		
事業所名	グループホーム広瀬の郷	ユニット名	ゆうゆうユニット
所在地	仙台市青葉区大倉字大原新田26-12		
自己評価作成日	令和2年10月24日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和2年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな立地にあり緑の多い中で鳥の鳴き声を聴いたり季節の流れを感じられるハード面と職員間でご利用者様が日々楽しく生活できるように声掛けやお互いが笑顔になれるような対応をできるように日ごろから対職員対利用者間のコミュニケーションをとるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定義山の入口で自然豊かな場所にホームがある。敷地内に法人の特別養護老人ホームが併設している。毎年ユニット毎に理念の振り返りを行い理念を作り、入居者が笑顔で暮らせるようケアに励んでいる。毎月の行事食には、職員と入居者が話し合いメニューを決め一緒に調理している。レクリエーションの数合わせゲームでメダルをもらえること等職員が意見を出し合い支援している。6地区の町内会長や民生児童委員が運営推進会議のメンバーに入り、防災連絡網に名前を掲載して協力している。目標達成計画の重度化における指針を作成し、入居時に家族に説明し支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム 広瀬の郷)「ユニット名 ゆうゆうユニット 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年3月にユニットごと理念について1年を振り返り翌年度からの理念づくりに活かして新年度の理念をユニット内に掲示して実践を行っている。	毎年3月に各ユニットで話し合い、新しい理念「四葉のクローバー(笑顔、安心、尊敬、愉快)をつくるケア」等を作っている。職員は笑顔で接し、本人本位の支援を心掛け、入居者が毎日笑顔で過ごせるよう励んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナウイルスのため行うことができなかったが職員に近隣地域在住のものが多く地域の話で地域とのつながりをもっている。	コロナ禍以前は、地域の踊りの団体やハーモニカ演奏等定期的にボランティアが来訪していた。地元の職員が多く、入居者に地域の出来事や入居者の知人のこと、店舗の情報等を話している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年ならば推進会議の場を用いたりしたが今年度はコロナウイルスの影響により事業所としての情報発信はできなかったが終息後は行っていく。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度に限ってはコロナウイルス感染防止対策のため活動報告と入所状況等を各委員様に郵送している。	地域包括支援センター職員や地域の町内会長6名、民生児童委員4名が出席していた。4月以降は利用状況や行事、活動内容などを文書で届けている。メンバーの助言で猪などの獣害に「狼の尿」を設置して防いだ。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市の担当者や大沢広陵地域包括支援センターの職員と密に連携をとり協力関係を築いている。	地域包括支援センターを毎月訪問し利用状況や運営状態などを報告し情報交換している。地域包括を介して家族から入居の相談を受けた。市の担当者と生活保護受給者の入居について相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催しその中の研修で身体拘束について学び、日ごろから意識をもって身体拘束のないケアを心掛けている。	3月毎に「身体拘束適正化検討委員会」を開催している。年に2回、管理者や職員が講師になり勉強会を行っている。玄関の施錠や入居者の自由を妨げないケアに取り組んでいる。移動の際には「動かないで、ちょっとまって」などの制止はしないでやさしく見守っている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議時内部研修にて虐待防止について学び、虐待による弊害についても学び虐待の無い施設づくりができるように職員間でも注意を払っている。	繰り返しやらず一と騒いでいる入居者にきつい言葉を発するケースがあった時等、気づいた職員が注意し合っている。入居者の思いに心を寄せることや個性を認めること等、職員間で話し合いケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は研修の機会を作ることはできなかったが個々の必要性について検討し制度の活用が必要であれば地域包括支援センターへ相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に重要事項説明書と利用契約書についてご説明を行い。疑問質問等にはいつでもお答えできるようにお話をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は面会ができないために、お電話やお手紙、メールが使えるご家族にはメールでも意見、要望を聞く機会を設けている。	毎月、入居者の様子や行事等手紙に写真を添えて届けている。家族から漬物等差し入れの申し出があるがバランスを考えてゼリーなどの菓子に限定している。外国の家族からハロウインのカードが送られてくる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから各職員とコミュニケーションを図り、どんなことでも話してもらえるような空気づくりを心掛けている。	長年一緒に働いている職員が多く、何でも話せる雰囲気がある。敬老会で豪華な仕出し料理の提案があり、知り合いの店に頼み、入居者が喜んだ。休暇等は前もって届け出があり、スムーズに取得している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長へ管理者や主任から日ごろの勤務状況の報告を行って問題があれば改善できるように話し合う機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度に限ってはコロナウイルス感染防止対策のため外部研修は参加していないが毎月職員会議の際に内部研修を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度に限り、コロナウイルス完全予防の観点からこのようなことは行っていない。	市主催のスキルアップ研修会や新人研修会等に職員が出席していた。研修会で知り合った職員とメールのやり取りをしていて、市の通知メールの内容など確認しあっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に計画作成担当者をご本人とお話する機会を作り、そこで得た情報を他の職員に伝達して初期段階での関係づくりに必要なケアを検討し実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に管理者から重要説明事項や契約内容を説明し、不安なことや質問などがあればいつでも連絡いただけるように関係づくりを行っている。入所後もご家族と連絡を取りあい信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時にご本人とご家族に施設での要望を確認し、訪問歯科など必要なサービスの検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様それぞれに役割を持っていただくなど一方的な関係にならないようお互いに助け合うことのできる関係づくりを築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	身元引受人様だけではなく広くご家族様とのつながりを大切にしながら今年度は面会が難しい為電話の取次ぎや写真の送付などを行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎ等でご本人様にとって大事な方との関係の継続を行っている。	コロナ禍以後は、電話やメール等で連絡する方や親戚と手紙のやり取りしている方がいる。2カ月に1回来訪する地域の理容を楽しむにしている方が大勢いる。毎月巡回して来る移動図書館を利用している方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で協力しながら塗り絵や制作活動を行うなどしてご利用者様間で協力し絆を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時にお知り合いの方でも構わないので困ったときや介護で知りたいことがあれば連絡いただけるように管理者より話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員それぞれがご利用者様とコミュニケーションをとるなかでご利用者様の思いをくみ取り行事食などの行事や日々の支援に活かしている。	入居者の側に座り話を聞いている。塗り絵が得意な方に昭和の町の様子を塗ってもらい展示している。帰宅願望が強い方には、抑制や制止はしないで、「仕事が終わったら一緒に帰りましょう」と応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時に居宅CMと連絡を取り基本情報をとりよせ、これまでの経過の把握を行っている。場合によっては入所前に利用しているサービス事業者にご利用者様について聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌やケース記録をベースにして一人一人の日々の様子から現状の把握を行いながら職員間で現在から今後のケアの方向性を話し合っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、場合によってはかかりつけの病院にも話を聞いて必要なケアが行えるように計画作成者が計画作成を行っている。	最長で3か月に1回見直しをしている。精神的に不安定になる方の話を聞くことや一緒に考えることや状態が悪くなった方に摂りやすい補助食を提供すること、寝たきりを予防するため離床する等計画書に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の最初のページにサービス内容を記載してそれに沿った記入方法で職員の気づきや工夫などがわかりやすくなっており介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様や家族の状況に応じて通院の付き添いや介護保険の更新など柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や警察、病院、民生委員等の地域の方々からご協力をいただきながら安全に安心して暮らせるよう支援を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に沿った病院選びに柔軟に対応して適切な医療を受けられるように柔軟な対応を行っている。	かかりつけ医は全員が協力医であり、夜間や休日など24時間の相談に応じている。受診の際は職員が同行している。専門医や歯科の受診も職員が同行している。緊急時は救急車で対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ施設内の看護師やかかりつけ医院の看護師の方と相談しながら傷病時の適切なケアをいつでも行えるように支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病棟看護師さんやソーシャルワーカーと連絡をとりあい退院後の復帰に向けてご家族も含めた話し合いを行い、別の施設を希望された場合でもスムーズに移れるように情報の共有を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する指針に沿ってご家族様の希望もお聞きしながら終末期に向けた支援を同法人内の特養や老健の担当者とも連絡をとりあいながら行っている。	入居時に「重度化ご利用者様に関する指針」でホームでの支援を説明している。看取りは行っていない。重度化の前段階で家族の希望を聞き、ホームで出来る支援や他施設の利用などを話し合って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で年2回急変や事故発生時についての研修を行い、救急対応や突然の体調不良時に対応できるように実践力を身に付けている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを策定し、年2回の消防避難訓練時も地域の方々と協力して行い地域全体での対策を図っている。	2018年に作った防災マニュアルを基に、夜間火災想定避難訓練を2回実施している。訓練に法人の特養ホームの職員が参加している。地域の町内会長や民生員が防災連絡網に登録し支援体制を敷いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員ご利用者様を人生の先輩として敬い、人格を尊重した対応を心掛けている。	名前にさん付けで呼んでいる。入居者のプライドを尊重し、言ったことに対して否定はしない。トイレの後に職員同士で「どうだった」とか人前では言わないようにし、声がけ誘導も別な言葉を使うなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションや行事の立案時にご利用者様からの希望を聞き出し決定権をご利用者様に与えて希望に添えるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれのペースに合わせた支援が行えるように職員間が協力し合いながら本人の希望にこたえられるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合ったおしゃれや身だしなみができるようにご家族や職員とで話し合いに合う洋服や化粧品を準備して支援を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回は行事食として献立をご利用者様と一緒に考えて一緒に調理して食事を楽しむ支援を行っている。	米飯以外は隣の特別養護老人ホームで調理している。毎月1回行事食の日を設け、職員と入居者が話し合っ決めて決めている。栗ご飯や麺類など調理や配膳など一緒に行う。栄養士が献立を立てている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士やかかりつけ医院の医師や看護師にアドバイスをいただきながら栄養や水分量が確保できるように支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを自分でできる方は自分で行って頂き、できない方はこちらで介助するなどして口腔内の衛生を保つように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握するためのチェック表を記入してご提示誘導や声掛けを行い排泄の自立に向けた支援を行っている。	12名の方は自分でトイレに行っている。他の方はチェック表を基に食事の前後等に、定時や状態に応じて声がけ誘導している。夜間は睡眠を妨げないように見守りにとどめている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消のため水分量の確保や主治医への相談を行いながら便秘が長期化しないための取り組みをおこなっている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴予定表にない方でも希望する日に入浴できるように柔軟に入浴希望に対応している。	3日に1回のスケジュール表はあるが希望によりいつでも入浴できる。拒否の方には無理強いしないで、シャワーや清拭で対応している。長湯や転倒などに注意し、車いすの方には2人で介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ薬に頼らず自然に睡眠をとれるように日中の活動や就寝時間を無理に決めずにご本人のペースに合わせた一日がえられるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の説明書を各個人の医療ファイルにファイリングして用法、用量、副作用や注意事項がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様ひとりひとりの現存する力や生活歴から得意なことを活かした役割を持たせて張りのある日々が過ごせるような支援を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度に関してはコロナウイルスのために外出支援が行えなかったが終息後は希望や季節に応じた外出支援が行えるように支援を行っていく。	春は定義山の花見や秋は秋保の紅葉などへ外出していた。コロナ禍以前は気軽に定義如来へ出かけたり、スーパーや図書館へ行っていた。今は天気の良い日にホームと特養老人ホームの庭や周囲の散歩に限られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理能力がある方に関しては希望によってご自分で管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によってご家族や大切な方への電話の取次ぎや手紙の投函などの支援を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった掲示物の作成や照明を電球色にするなど過ごしやすい環境づくりに努めている。	天窓から光が差し込み、掃き出し窓から自然豊かな景観が見渡せる。壁に、山並みを配した大きな貼り絵が飾ってある。広く明るいホールは食事や憩いの場であり、風船パレー等レクリエーションを楽しむ場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけでなく廊下のソファで自由に休めるように居場所づくりを行っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が快適に過ごし施設での思い出の品を飾るなどして各々の人生歴を活かした居室づくりを行っている。	和室に畳を敷き、窓サッシに障子が付いている。洋室にはベッドがあり、居室にはエアコンと換気扇が備えてある。使い慣れた筆筒や収納ケース、テレビ、ラジオ等を持ち込み、読書など自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの現在の能力にあわせた大きなカレンダーや各居室への標識などご利用者様が安心してくらしができるように支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101549		
法人名	社会福祉法人共和会		
事業所名	グループホーム広瀬の郷	ユニット名	いきいきユニット
所在地	仙台市青葉区大倉字大原新田26-12		
自己評価作成日	令和2年10月25日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和2年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ひとりひとりが自我をもって生活できるようにそれぞれの気持ちを考えて話を聞くなどして支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定義山の入口で自然豊かな場所にホームがある。敷地内に法人の特別養護老人ホームが併設している。毎年ユニット毎に理念の振り返りを行い理念を作り、入居者が笑顔で暮らせるようケアに励んでいる。毎月の行事食には、職員と入居者が話し合いメニューを決め一緒に調理している。レクリエーションの数合わせゲームでメダルをもらえること等職員が意見を出し合い支援している。6地区の町内会長や民生児童委員が運営推進会議のメンバーに入り、防災連絡網に名前を掲載して協力している。目標達成計画の重度化における指針を作成し、入居時に家族に説明し支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム 広瀬の郷)「ユニット名 いきいきユニット」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に年1回理念について振り返る機会を作り年度ごとの理念についてユニット内に掲示して共有して実践を行っている。	毎年3月に各ユニットで話し合い、新しい理念「四葉のクローバー(笑顔、安心、尊敬、愉快)をつくるケア」等を作っている。職員は笑顔で接し、本人本位の支援を心掛け、入居者が毎日笑顔で過ごせるよう励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の訪問理容を利用しており、地域とのつながりを継続している。	コロナ禍以前は、地域の踊りの団体やハーモニカ演奏等定期的にボランティアが来訪していた。地元の職員が多く、入居者に地域の出来事や入居者の知人のこと、店舗の情報等を話している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響により外部に向けては今年度は発信はできなかったが終息後は運営推進会議等を利用して発信する予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度に限ってはコロナウイルス感染防止対策のため活動報告と入所状況等を各委員様に郵送している。	地域包括支援センター職員や地域の町内会長6名、民生児童委員4名が出席していた。4月以降は利用状況や行事、活動内容などを文書で届けている。メンバーの助言で猪などの獣害に「狼の尿」を設置して防いだ。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市の担当者や大沢広陵地域包括支援センターの職員と密に連携をとり協力関係を築いている。	地域包括支援センターを毎月訪問し利用状況や運営状態などを報告し情報交換している。地域包括を介して家族から入居の相談を受けた。市の担当者と生活保護受給者の入居について相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について内部研修にて学び拘束の無いケアについて日々取り組み、職員同士でも拘束の無いように普段から話し合っている。	3月毎に「身体拘束適正化検討委員会」を開催している。年に2回、管理者や職員が講師になり勉強会を行っている。玄関の施錠や入居者の自由を妨げないケアに取り組んでいる。移動の際には「動かないで、ちょっとまって」などの制止はしないでやさしく見守っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回虐待についての内部研修を行い、虐待について学び職員間でも注意を払いながらケアを行っている。	繰り返しやまず一と騒いでいる入居者にきつい言葉を発するケースがあった時等、気づいた職員が注意し合っている。入居者の思いに心を寄せることや個性を認めること等、職員間で話し合いケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や成年後見制度について必要に応じて管理者や計画作成担当者より行政や地域包括支援センターへ相談できる体制が整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に重要事項説明書と利用契約書についてご説明を行い。疑問質問等にはいつでもお答えできるようにお話をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は面会ができないため、お電話やお手紙、メールが使えるご家族にはメールでも意見、要望を聞く機会を設けている。	毎月、入居者の様子や行事等手紙に写真を添えて届けている。家族から漬物等差し入れの申し出があるがバランスを考えてゼリーなどの菓子に限定している。外国の家族からハロウインのカードが送られてくる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから各職員とコミュニケーションを図り、どんなことでも話してもらえるような空気づくりを心掛けている。	長年一緒に働いている職員が多く、何でも話せる雰囲気がある。敬老会で豪華な仕出し料理の提案があり、知り合いの店に頼み、入居者が喜んだ。休暇等は前もって届け出があり、スムーズに取得している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長へ管理者や主任から日ごろの勤務状況の報告を行って問題があれば改善できるように話し合う機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度に限ってはコロナウイルス感染防止対策のため外部研修は参加していないが毎月職員会議の際に内部研修を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度に関し、コロナウイルス完全予防の観点からこのようなことは行っていない。	市主催のスキルアップ研修会や新人研修会等に職員が出席していた。研修会で知り合った職員とメールのやり取りをしていて、市の通知メールの内容など確認しあっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直後は慣れない環境の中で早く自分の生活スタイルを構築できるように実調時の情報を基に職員間で把握し統一したケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時にご家族からもご本人のできないことや困りごとを広く聞き要望があればいつでも相談いただけるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に生活実態調査をご本人・ご家族立会いの下行い、アセスメントの実施。職員間で課題分析を行いニーズを確認する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを家族のように慕い、慕われる関係づくりに努めのんびりした雰囲気を作っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも、利用者本人が話していたこと、電話等でご家族が話したことなどを代弁しお互い良好な関係が構築できるように支援している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナウイルスのためできていないがご家族以外の地域の方々にも面会に来ていただき馴染みの関係を築いている。	コロナ禍以後は、電話やメール等で連絡する方や親戚と手紙のやり取りしている方がいる。2カ月に1回来訪する地域の理容を楽しむにしている方が大勢いる。毎月巡回して来る移動図書館を利用している方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を職員がそれぞれ把握し良い関係が築けるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にも次のサービスへの移行時に情報協力やご家族の不安を取り除けるように支援を行い、その後の相談事も気軽に言ってもらえる関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位のケアができるように日ごろからご利用者様と向き合い思いに寄り添えるように職員間で情報交換、検討を行っている。	入居者の側に座り話を聞いている。塗り絵が得意な方に昭和の町の様子を塗ってもらい展示している。帰宅願望が強い方には、抑制や制止はしないで、「仕事が終わったら一緒に帰りましょう」と応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調前に居宅ケアマネやご家族から情報をもらいこれまでの生活の把握を行い継続した暮らしができるように支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画作成担当者がアセスメント表をもとに職員会議、ケース検討会で話し合いその後のサービス提供に活かしている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース検討会にて新たな課題や解決できたこと等を話し合い現状に適したプランを作っている。	最長で3カ月に1回見直しをしている。精神的に不安定になる方の話を聞くことや一緒に考えることや状態が悪くなった方に摂りやすい補助食を提供すること、寝たきりを予防するため離床する等計画書に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を基にした情報を職員間で必要に応じて話し合い、介護計画の見直しやケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズとご家族のニーズが異なることがあるが、双方の意見をまとめ、具体的に施設でできることを職員間で話し合い、サービス内容に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の町内会長や民生委員の方などの協力を得ながら豊かな暮らしができるように心がけている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望に応じて医療機関を受診。日ごとの健康状態や既往歴など職員が認識している。	かかりつけ医は全員が協力医であり、夜間や休日など24時間の相談に応じている。受診の際は職員が同行している。専門医や歯科の受診も職員が同行している。緊急時は救急車で対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職がないために法人内の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病棟看護師、医療ソーシャルワーカー等への情報交換等積極的に行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関しての指針を軸にご家族と今後の希望について話し合い希望に添える今後の道を各施設の担当者等と相談を行っている。	入居時に「重度化ご利用者様に関する指針」でホームでの支援を説明している。看取りは行っていない。重度化の前段階で家族の希望を聞き、ホームで出来る支援や他施設の利用などを話し合って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿った対応が行えるように年に2回内部研修を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回地域の方々も含めた消防避難訓練を行っている。(今年度はコロナウイルスのため地域の方々不参加)	2018年に作った防災マニュアルを基に、夜間火災想定避難訓練を2回実施している。訓練に法人の特養ホームの職員が参加している。地域の町内会長や民生員が防災連絡網に登録し支援体制を敷いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の尊厳を保ちプライバシーの保護など気づいたことは職員同士で注意し合いながら行っている。	名前にさん付けで呼んでいる。入居者のプライバシーを尊重し、言ったことに対して否定はしない。トイレの後に職員同士で「どうだった」とか人前では言わないようにし、声がけ誘導も別な言葉を使うなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の一方的なケアではなく本人の自己決定を導き出せるようなケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のその人らしい暮らし方を施設でもできるように援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい服装ができるよう身だしなみも含め支援を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食でご利用者様が今食べたいものを聞き出し一緒に調理をおこない提供している。	米飯以外は隣の特別養護老人ホームで調理している。毎月1回行事食の日を設け、職員と入居者が話し合って決めている。栗ご飯や麺類など調理や配膳など一緒に行う。栄養士が献立を立てている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの体格などにあわせて適度な食事量と栄養を摂れるように支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者に応じた口腔ケアを行い、病気のリスクを少しでも減らせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の状態に合わせた排泄ができるように状態観察と支援を行っている。	12名の方は自分でトイレに行っている。他の方はチェック表を基に食事の前後等に、定時や状態に応じて声がけ誘導している。夜間は睡眠を妨げないように見守りにとどめている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と連携をとり服薬や水分摂取にてコントロールを行い、便秘の予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々の希望に合わせた入浴計画を行い、好きな時間に入浴していただいている。	3日に1回のスケジュール表はあるが希望によりいつでも入浴できる。拒否の方には無理強いしないで、シャワーや清拭で対応している。長湯や転倒などに注意し、車いすの方には2人で介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けてはいないが20時以降は照明を減光して夜勤者も足音を極力たてないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各医療ファイルへ定期薬の情報をファイリングして服薬情報がいつでも確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中で昔していたことや得意であったことを実際体験していただき、懐かしさや感動を感じていただけるように支援を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度に関してはコロナウイルス感染予防のため外出支援は行っていない。	春は定義山の花見や秋は秋保の紅葉などへ外出していた。コロナ禍以前は気軽に定義如来へ出かけたり、スーパーや図書館へ行っていた。今は天気の良い日にホームと特養老人ホームの庭や周囲の散歩に限られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるがご家族と金額の取り決めを行いながら自分で管理できる体制を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人からのお電話等あった場合は取次ぎを行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寒暖差を考えた空調の調節。冬季は加湿器を使い湿度を調節して体調の維持に努めている。	天窓から光が差し込み、掃き出し窓から自然豊かな景観が見渡せる。壁に、山並みを配した大きな貼り絵が飾ってある。広く明るいホールは食事や憩いの場であり、風船パレー等レクリエーションを楽しむ場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の相性を考えた座席配置やその時によって自由に座る場所を決めていただくなどしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家財道具を入所時に持ち込んでいただき安心した暮らしを継続できるように心がけている。	和室に畳を敷き、窓サッシに障子が付いている。洋室にはベッドがあり、居室にはエアコンと換気扇が備えてある。使い慣れた筆筒や収納ケース、テレビ、ラジオ等を持ち込み、読書など自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室や共同トイレなどの表示を大きくするなどしてわかりやすい環境づくりでできることを増やしている。		